東間小学校創立１００周年記念式典　児童代表　椎屋　彰　様　　あいさつ文

決意のことば

児童代表 椎屋 彰

秋空の下、今日、ここに、ぼくたち六百二十名の東間健児は、たくさんの来賓の方々のご臨席をいただき、ＰＴＡの方々ならびに先生方と共に、本校創立百周年記念式典を、行なうことのできることを、この上ない誇と喜びを覚えます。

一口に百年と申しますが、大変なことだと思います。

人がどんなに長く生きても、仲々百才までは生きられません。途中で病気や、思いがけない事故で、若くして一生を終る人もいます。もし、百才生きたとしても、年をとろと、身体が弱くなり思うように動けません。しかし、東間校は百才になりましたが、おとろえるどころか、ますます若々しく青年のように元気です。おそらく今後何百年たっても、地球のあろ限り元気に栄えていくことでしょう。

東間校は、ぽく等の母校。とても、大きなやさしいお母さんです。一度にたくさんの子供をおなかいっぱいつめこんで、雨の日も風の日も雪の日も、いやな顔一つせず、疲れを知らず、やさしく時には、厳しく、ぼく等をはぐくみ、育ててくれます。これまでに、幾百幾千の立派な先輩たちを、世に送り出しました。ぼくは、この大きなお母さんこそ、歴代の校長先生や諸先生、そして朝夕やさしく見守ってくれる両親、先輩の方々の「まごころ」のかたまりみたいな気がします。

校訓に、「至誠」の二字があります。これは「何ごとも、まごころを持って、一生懸命がんぱれ」ということです。また記念碑に、「出藍」の二字がきざまれていますが、これも、「一生懸命勉強して、立派な人になりなさい」という先生方や、両親のねがいが、ひめられていると聞きました。

ほくたちは、こんな、立派な歴史と、伝統のある学校に学ぶことのできる、幸福をしみじみ感じますと共に、こんなに立派な学校にしていただいた、たくさんの先輩の方々に、心からお礼の言葉を申し上げます。

また、本日の式典を、迎えるまでに、大変なご苦労をいただいた、実行委員会の方々や、町内会の方々にも、お礼を申しあげます。

ぼくたち六百二十名は、皆さまのご厚意に報ゆるべく、この栄えある式典にのぞみ、「至誠」と、「出藍」の、精神を十分にかみしめ、決意を新たにして、今後の学習に、一そう努力し、がんばることを誓います。

（百年祭記念式典のあいさつから）